

～延藤が縁側的な視点で今を読み解く～ ENDOKUKAI 3

『未来から聞こえてくる言葉』

錦二丁目長者町の人々との出会いの中で、まちの未来を拓く言葉が度々生まれていく。

今年の長者町の新年会でAさんがつぶやいた。

「かつて東京神田や滋賀長浜を見学した時、まるで映画をみている思いだった。去年の暮の長者町家プロジェクトの集まりでこんな私たちがまちを好きな色々な若い人たちがいるんだと思うと、自分の考えを変えないといけないとふと感じた。「映画を見る」から「舞台上上がる」と。またすぐそうはできないもどかしさが自分の中にはあるけれど・・・」

「地権者が「見物人」から「演技者」に変わっていく予感が立ちあらわれている。」

昨年春、まちづくりマスタープランの発表。「まちの会所」に來られたBさんのつぶやき。「まちの未来像が豊かに語られているのにふれて、私はこれをつくることに関わっていないなかつたことを残念に思う。なぜなら私がまちの未来のあり方をめぐって何らかのかかわりをするのは私の生きる自由を歌いあげること。しなかつたことは私の生きる自由を自ら束縛していた。これからは、私はまちのあり方を考え仲間と共に動くことを通して、生きる自由を大きくしていきたい・・・」

ある日の公共空間デザイン部会の会合で、「このまちには、まちづくりに無関心な人が多い。自分の得になるようなまちづくりが見えないと、つっぱねる人がいる・・・」とグチがこぼれる。間髪をいれずに、Cさんは声高にいつてのけた。「そういう人にはいつもぼくはこういつている。あなたのためになんかないっ！あなたの息子さんのためにまちづくりをしてるんだ！」

次世代、未来世代のためにまちの育くみに関わることにの気力あるふれる言葉が人々の心に響いた。

産業振興部会の集まりで、自社の経営理念を語るDさん。「愛される、信用される、努力と逆境に負けない根性、誠心誠意感謝の心で、地域と共存共栄で、一期一会・・・」と語る。

*

Eさんは、それをうけて「ものの万能文化に依存してきたこれまでのやり方をこえて、人のまちへの向きあい方において、徹底したやさしさと誠実さが大切にされる」と、経営もまちも育つていく」と共感の言葉を述べる。

*

先日の新年会の席上でFさんは、「マスタープランは理念と方向づけを描いたが、私たちはその中の最も重要な課題の戦略的選択をし、如何に事業として実現できるかを考え実践したい。自分らで知恵だけでなく資金ももちよつて事業を成功させたい」と勢いよく語られた。

- ・「映画を見る」から「舞台上上がる」へ
- ・まちづくりかかわることは生きる自由の拡大
- ・次世代のためのまちづくりへ
- ・やさしさと誠実さを
- ・戦略的事業の設定と実現を

と、次から次へと「未来から聞こえてくる言葉」が生きていきと語られている。これらの言葉が声になりふるまいとなりつながりあって、まちづくりのソフト系とハード系が織りあわされて、まちの生き方の模様が確実に変化していく。

2012年は、このような「未来から聞こえてくる言葉」に耳を傾けつつ、ひとりひとりのまちへのかかわりの言動と行動をさらに深く深く持続的に展開させていこう。そして「何を指すか」のキモチづくりから、具体的事業のカタチづくりへと育んでいくプロセスを楽しみましょう。

(延藤)

<PROJECT ENGAWA>

- 錦二丁目コーディネーター
- 「未知の道」を歩みつつ、歩いて楽しい安全な道づくりを目指す
—「公共空間デザイン部会」の課題(案)・・・ 2 P
- 長者町家拡大版#1 レポート・・・ 4 P

<地域の活動家紹介>

- まち・ひと・・・ 6 P

<まちの縁側育くみ事業>

- GOGO!ルポ・・・ 7 P
- ジネンカフェだより・・・ 9 P
- まちの会所通信・・・ 10 P

- 編集後記・・・ 10 P

目

次

「未知の道」を歩みつつ、歩いて楽しい安全な道づくりを目指す
 「公共空間デザイン部会」の課題

1. 道づくりの歴史的3段階

公共空間デザイン部会は、歩行者のための道づくりについて議論が進んできている。そこには新しい時代の公共性の実現という新たな「物語」が潜んでいる。ふりかえってみると、このまちの道路は、歴史的にみて次の3つの段階がある。

第1は、400年前に家康が清須越しの際に「上意下達」的に基盤の目の道路づくりをした段階。ここでは、空間的には整然としたグリッドパターンの区画道路と、街区内部に「会所」という広義のコモンスペース（神社・仏閣等のみんなの居場所）



写真1：グリーンストリートのイメージ（『これからの錦二丁目長者町まちづくり構想』P.30）

▽が補充・支援する関係となること
 によって進展していく。△民の公▽が機能するためには、町内会やまちづくり連絡協議会の組織的対応と、それから住民・地権者・事業者ひとりひとりのきもちぞろえが不可欠である。新しい時代の道路まちづくりは、従来の公私（行政・住民）二元論を超えて、△私発のかかわり▽△民の公▽△行政の公▽が相互に関係しあう相関的三元論の立場にたつてすすめられていく。そうすれば△行政の公▽が担う「大きな公共

が整備されるというある時代の偉大な秩序としてのこのまち固有の歴史的成果を生みだした。制度的には、政治的権力者によって整備された。

第2段階は、第二次世界大戦後、基盤目状の道路を基礎に、行政主導でありながら、地域住民が土地を応分に出し合う土地区画整備事業によって、現代的都市交通に備えて道路の幅員を広げた。それは自動車交通に対応し、かつこのまちの繊維街としての経済発展を支える物的基盤をなすものであった。

第3段階は、今後は人が安心して楽しく歩ける道路整備である。そのことは2011年春発表のマス

タープランの中には会所・路地の伝統を現代に活かすこともとうたわれた。

2. 「行政の公」から「民の公」へ

「大きな公共性」から「小さな公共性」へ

第1段階は、権力による一方的整備であるが、第2段階と第3段階は、行政と市民が行動をともにする△公共性▽が実現している。しかし、第2と第3には決定的違いがある。即ち、前者は車中心の価値観から、都市全体の幹線道路整備と地区内も過交通道路整備をすすめてきた。後者は、人中心の価値観から、地区内道路の再編整備を課題とする。第2

しくみがゆるやかに形成されはじめていく。

3. 「小さな公共性」実現のための今後の課題

最後に行政主導の「大きな公共性」を超えて、住民主導の「小さな公共性」実現のための今年（2012年度）の課題をあげてみよう。

- 1) 歩行者のための道路整備の学習活動を重ねる
- 2) 16街区内歩行者路整備優先道路（モデル）の選定・判断
- 3) モデル道路の歩行者空間整備構想づくり
- 4) 同上の「社会実験」を行うことこの地区内合意

そして次年度以降のモデル道路の「社会実験」に移行していく。尚、「社会実験」とは、いきなり道路整備工事に入るのではなく、道路整備構想案・基本計画案をたて、基本計画案を仮設的に整備し、人と車の移動の実際を一定期間調査・検討を行い、あるべき本格的整備内容を明

段階は△行政の公▽に対し、第3段階は△民の公▽である。△行政の公▽は、全体、不特定を対象にする時には役割と効果を發揮した。しかし、地区道路という個別、特定を対象にする場合には、△行政の公▽は前面から後方支援に変化せざるをえない。地区レベルの道路整備は、地区住民の発意・討議・合意・決断によってなされる。その進め方は△民の公▽である。

第3段階をむかえたこれからの道路整備は、△民の公▽を前面に、△行政の公▽が後方支援をするための「お試し道づくり」のことである。このプロジェクトの成果は部会参加メンバーだけでなく、地域の人々の参加によって協議・提案・社会実験・反省・再検討・再協議・合意の流れづくりにかかっている。歩行者にとっても営業車にとっても双方に互恵性のある歩行者空間づくりは、価値観の対立や葛藤が数多予想される。その未知の領域を丁寧に持続的に楽しみながらコトを運べるか否か、「公共空間デザイン部会」は、「未知の道」を確実に歩み始めた。

新たな「物語」を生み出すことこの新たな「始まり」への自覚をもって、創造的なコトの流れに共にかわってきたい。（延藤）

長者町家プロジェクト 拡大版#1 レポート
都心居住への想いの共有から長者町家へのイメージを紡ぐ

2011年12月8日、まちの会所で長者町家プロジェクトの拡大版として、現在、錦二丁目で検討を行っている長者町家のイメージを膨らませる為の意見交換会を行いました。長者町家プロジェクトは錦二丁目マスタープランの3つのまちづくり方針のひとつである「安心居住の仕掛け」に位置付けられています。

当日は、繊維業を営むまちの人やまちで活動する長者町が大好きな人達、長者町に住んでいる人や住みたいと考えている人、アーティストなどなど、長者町内外からたくさんの方が集まり、想像以上に幅広い意見交換を行うことができました。

はじめに、建築家の武藤さんから、自身の作品を用いて都心居住・シェア居住へのイメージを膨らませるプレゼンテーション。狭小住宅で広く

住む為の空間的工夫や、都市との関わり方・閉じ方。また、南面採光にとられず良好な景色を切りとったり、コインパーキングと共存する住まい方の提案をしたりと、建築家ならではの都市に住む為の工夫が詰まった事例紹介で参加者の住まいに対する常識を覆す頭の準備体操を行いました。

その後、錦二丁目の建物に対するコンパージョンの提案のプレゼンテーションを通して長者町家の具体的なイメージの共有をしてから、様々な立場の方がそれぞれ長者町家に対する思いを語る発表「長者町で住むとしたら・・・」へ突入。

はじめに、アートに関わるお仕事をしてされている吉田さんと新見さんから、アーティストが都心に住むために必要なことをお話くださりま

した。吉田さんからは、以前関わってみえた、横浜の「BankART」の活動についての仕組みや横浜市が行っている取組と、長者町にアーティストが住むことができる仕組みや支援への提案と想いを話してくださいました。新見さんは、ご自身がいくつかの部屋をアーティストやデザイナー向けに賃貸している経験から、アーティストが都心に住むことについて、都市が制作のテーマに対して刺激になったり素材屋さんが近かったりなど、制作環境としてはメリットが大きい一方、アーティストはデザイナーと違い都心の高い賃料を支払い続けることが難しいという現状を報告くださりました。

次に、錦二丁目好きが高じて?!ついに錦二丁目に引っ越して来た高間さん(写真1)と、錦二丁目のお隣、丸の内二丁目に住む山田さんは、長



写真1：長者町居住の魅力を語る高間さん

者町居住の醍醐味として「まちに一步出ると知り合いがたくさんいる。豊かな人間関係があり都心なのに人がいる感じが楽しい」ことを挙げてくれました。高間さんは、以前一人暮らしをしていたまちでは、ほとんど誰とも挨拶をすることがな

かったとのこと・・・。それに比べて、長者町では、困ったときに頼れる人がたくさんいて、「女性が一人で住むのにとっても安心なまち」と実際に長者町居住を実現している女性ならではの意見!また、お二人とも職場も錦二丁目界隈で職住近接の自転車ライフを楽しんでおり、都心の住みやすさや楽しさについても活き活きと語ってくださいました。

これには、長者町のまちの人達も「都心だから、居住環境としては良くないかと思っていたのに」と驚きを隠せない様子。

アーティストの方々からは、NYで生活していたころのシェア居住の



写真2：当日風景。さまざまな立場の長者町好きが集う

体験談として、忙しくても協力して生活を行うため(食事作りや掃除など)一人よりも生活がしやすいことや、情報交換ができる仲間がいる心強さについても話していただきました。他にも、パリは哲学者やアーティストが集い、議論する場所があるから芸術の都であることが出来るという鋭い指摘も。現在の日本では、音楽やパフォーマンスはまちなかの発表が難しく、すぐに警官が飛んできてしまうのだとか・・・。そこで、「錦二丁目は音楽・パフォーマンスOKなまちですよ!」というふうになつたら、住みたいアーティストも増えるし、まちの魅力にもなるのではないかという素敵な提案まで!

一方で、まちに音の問題に対する理解が必要だという心配も・・・。これに対して、まちの方から「昔、長者町に住み込みで働いている人が多い時代には、トランペットが趣味の方が住んでいたこともあった。朝、その人が吹く音が聞こえると『あ! モーニングコールだ!』と皆が思っていたものだ」という思い出を語ってくださいました。なんと!!音楽やパフォーマンスがまちなかで繰り広げられる夢のような長者町の未来は、懐かしい暮らしの中にヒントがあったようです。

他にも、錦二丁目のお隣、丸の内二丁目にある「東京福祉大学」の留学生による、日本の賃貸事情についての感想や、外国人のシェア居住に對しての意見。また、先生からは、留学生の居住に對する意識や実態と、地権者と学校が契約する仕組みの提案などを話してくださいました。

まだまだ、紹介しきれないくらいのエピソードや意見があふれるように飛び出した長者町家プロジェクト

拡大版。本日の延藤先生のまとめは、頭文字を逆さから読んで・・・創造的おりあい!*

この日いただいた、活き活きとした宝物のような意見と、長者町居住に對する想いを大切にしながら、実現の為のステップをひとつひとつ、登っていきたいものです! (川澄)

長者町家プロジェクトのすすめ方キーワード*1

2011.12.28

い いきいきとした都市空間とは、ヒト・モノ・コトが行きかう
—まち中シェア空間が都市を育くむ

あ あそびの多いまち暮らしの経験を分かちあい重ねていこう
—映画会、カルタ、学び、音楽 etc

り 留学生は、住み方と家賃のバランスと生活の利便性
—スーパー、ファーマーズマーケットなど生活のしかけを

お 想いは、子どものさんざめくまちと、お年寄りのたたずまいのあるまちへ
—アーティストがいるまちは、子どものひらめきとお年寄りの安心を育くむ

的 的を絞ったユーザーグループ形成と住み方構想を
—シェアに相応しいハード・ソフト・ルールの呼称

造 つくり方は敷地条件に合わせて自由自在
—オーナー・ユーザーに合わせて、多彩な内と外の空間しかけ

創 創意工夫に満ちたこみの循環をしかける
—施主の気持ち、ユーザー計画案、構造、法律、経営、全体を束ねるデザイン

まち・ひと

まちで元気に活動する人たちに
お話を伺う企画「まち・ひと」。第
1回は、長者町で「ART LAB
AICHI(アートラボあいち)」を
今年度運営している「はち」の新見
さんにお話を伺いました。

「はち」主宰 新見さんインタビュー
今、活動を通じて思うこと

川澄(以下 Kaw) 本日はよろしく
お願いします。まず、はじめに、
新見さんが、長者町に関わるよう
なったきっかけを教えてください。
新見さん(以下 Sin) あいち
トリエンナレ2010の時にサ
ポーターズクラブの運営メンバ
ーとして関わったことがきっかけ
です。サポーターズクラブへの参加
は、2009年の秋から2010
年の冬に、名古屋のまち中に作品を
展示するプロジェクトの企画・運営
に携わったのがきっかけ。それま
でも、糸びすビルパート1にある
「YEBISU ART LAB」には
よく来ていました。
Kaw 新見さん自身は、ずっと
アートに関わる仕事をされているの
でしょうか？



写真1: 終始にこやかに語る新見さん

Sin 新築に2012年でオー
プン30年を迎える多目的なスペース
をやっています。元々は、父が経営
していた画廊を引き継いでおり、当
時は「新築画廊」という名前でした。
現在は「パルル」という屋号で運営
しています。また、「はち」は、任
意団体ですが、建築・音楽・パフォー
マンズの人間などが集まって、ア
ートに関するものについて協力でき
るネットワーク(プラットフォーム)
を作ろうという活動をしています。

Kaw 長者町のまちの印象は？
Sin 昔は「何となくお店がたく
さん並んでいる所」というくらい
印象で、来ることはなかったかな。
長者町を意識するようになったのは
最近になってからです。今は、ア

トラボあいちにないければならぬ
時間が長いので、まだまちの事が分
かっていないと思う。まちとの繋が
りはまだできていないけれど、いろ
んな人、いろんな集まりがあるまち
だと思う。

Kaw まちとアートの関係、幸せ
な関係についてのお考えがあれば教
えてください。

Sin 地域の主役は地元の人だと
思います。外部からアートをもち込
んで去っていくことに対する
疑問もあるが、アートを仕掛ける側
がそこに住み続けられるとは限ら
ない。唯一の答えは見つからない
けれど、アイデアを作る仕組みは
提案できるかもしれないかな？

それはたとえ、常に話し合いが
行われる仕組みなんじゃないかなと
思います。人が集まると、価値観の
違いなどから常に分断が生じるよう
になる。それは、複数の人たちが関
わる以上避けられないと思います。
だから、話し合いの場、新しい視点
や何かが生まれる仕組み、対話をす
る場所が必要だと思います。そこに
アーティストがいるとすごく良い。
予想もしないアーティストの存在と
いうか、アーティストは必ずしも作
品を作る必要はなく、彼らが関わ
るプロセスに効果がある。作品はそ
の結果だと思っています。

Kaw 最後に、今後長者町で行
いたい活動はありますか？
Sin 独立したどの活動にも属
さない役割として、話し合いの場



写真2: ART LAB AICHI

提供ができるようになれば良いな
と思います。まちのいろんな人が立
ち寄れて、常に話し合いができるよ
うな感じ。そこから新しい発想が生
まれて、みんなが実行できたらよい
と思います。まちの漢方薬というか、
いろんな人が活動するなかで起こる
出来事の間をやらざる為の人にな
りたい。昔だったら、お坊さんとか
神社の神主さんとかがそういう役
割の人だったのかもしれない。

まちづくりや市民活動、ボランティ
アなどなど、自身の暮らす地域に目
を向けることにより毎日の暮らしを
より充実したものにしたと考える
人たちが近年増えているように感じ
る。一方で、参加者が増えれば増え
るほど、話し合う場の重要性も増し
ていくだろう。新見さんの今後の活
動に期待したい。(聞き手:川澄)

GOGO!
ルポ

名古屋市東区の縁側事業!

住所:〒461-002
名古屋市東区代官町 29-18
問い合わせ(担当:永井)
TEL/FAX: 052- 930-2505

まちの縁側 GOGO! が
子どもたちのための
野球ソフトボール企画を通して
伝えたいこと

平成23年10月15日(土)に、ま
ちの縁側 GOGO! 主催で葵少年
少女野球ソフトボールをはじめま
した。(今後毎週土曜日午前10時~12
時、場所は葵小学校運動場で開催し
ます。参加無料。) 葵小学校野球部
コーチを4年間やってきました。野
球部は4年生からでも、もっと早い
段階から一週間に1回でも、球遊び
をしてほしい。親子で楽しいみなが
ら上達してほしい、との思いです。

野球と子育て、まち育ては
つながっています

実はこの取組は、20年程前自分の
子どもを育てる時にはじめてもの
です。私自身が野球少年で、その時
から比べると、自分が子育てする時
には都市環境の中で親子でキャッチ
ボールができる場所はほとんどな
くなっていきました。昔は公園・駐
車場・路上でやっていたのですが、今
やると「悪い子」になってしまふ。
そこで、親子で野球ができる環境づ
くりを自分たちでしよう、というこ
とで葵小学校の運動場を借りて開催

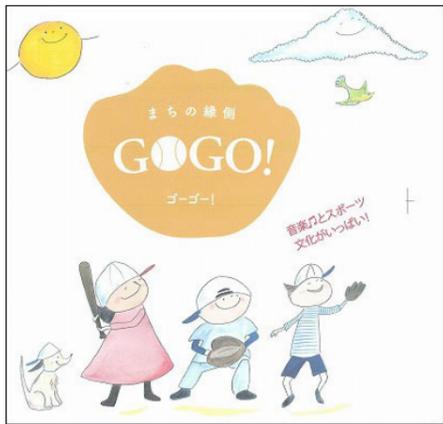


写真1: 試合開始 GOGO!



写真2

するようになったのです。(写真2)
夏は野球、冬はサッカー。寄付を募
り、運動場を借りる手続きをし、チ
ラシなどは三男坊がつくってくれ
(写真4) 広報しました。運動場を
借りるのも簡単ではありませんでし
た、のりこえて自分たちの子どもの
ために環境をつくっていくこと自体
「責任をもってやる地域」としての
活動だったと思います。向こう三軒
両隣協力関係を頼って、そして子ど
もを育てていく。今言う「子ども

ため」というのは、全てお膳立てが
あって、抵抗力の無い子を育てるよ
うなところがありますが、そういう
ことではなくて、臨機応変に問題を
解決できる子どもを育てることが大
事。そのためには、大人が行政など
人任せにするのではなく、自分たち
で責任をもって協力している姿を見
せることだと思っています。自分の子も
地域の子どもも協力して育む、これ
が復活させたい想いで、10月から再
びスタートしたのです。

地域の中、心としての小学校へ

私の想いは、学区地域の中心にあ
る小学校は、地域の拠点となってい
てほしい、ということ。例えば
デパートのように、空間と時間を使
いきる。理想を言えば、地域が責



写真3: 永井充少年時代(まちの縁側 GOGO! 主宰)

第二回サッカー大会
東西対抗戦
 昭和63年3月27日(日)午後1時
 葵小学校運動場
 雨天の場合 4月3日(日)



選考運動部のメンバー
 主催 葵少年スポーツクラブ

写真4

任ある運営をできるようになり、教育委員会が管理する授業以外は、地域管理。そんなことを口だけで言っているだけでもだめだから、まずは私にできることをはじめよう、ということなのです。千種区にある東海病院グラウンドの管理も市民運営の代表をさせていただいていますが、市民の宝ものは自分たちの手で、とうことで、病院野球場の廃止が決まったとき、次の利用計画が決定するまで、市民の貴重なスポーツ環境として有



写真5：永井亮（こんな風貌で地域に向かっています。）

効に活用しようという提案したことがはじまりでした。スポーツは市民にとつての宝物ですから、スポーツを通して居場所づくり・まちづくりにつながっていくと信じています。

(聞き手：名畑)

ジネンカフェ
だより

「NPO 法人くれよん BOX」
 「かたひらかたろう」
 との協働プロジェクト。

問い合わせ (担当：大久保)
 TEL/FAX：052- 201-9878

2012年が明けた。2007年1月から始めたジネンカフェも、今年で6年目のシーズンを迎える。これに際してはこれまでの振り返りと、これからの展望を書いてみようと思う。

そもそもジネンカフェとは、まちの縁側育くみ隊と昭和区のNPO法人くれよんBOX、緑区の任意団体・かたひらかたろうとの協働によって立ち上がったプロジェクトである。これまでは毎月のゲストを三団体の当番制でお招きし、拡大版の企画は私が原案を出してミーティングで揉み上げて決めるといふスタイルを採ってきた。しかし、最近では毎月のゲストも私の繋がりで来ていただくことが多くなっている。長年市民活動をしてくれている私と異なり、ほかの二団体は基本的に障がい者地域



写真1：長者蜂の飛行区域を説明する古谷さん (VOL.056)

活動支援事業所だったり、子育て支援サロンだったりするので、他の団体さんとの繋がりが希薄なのである。だからなのだろうか。近頃福祉分野の人で、私の活動やジネンカフェに関心を示してくれる人たちが増えてきている。ありがたいことだ。昨年、東日本大震災が起こり、ひととひととの絆、ひとと自然との共存、地域コミュニティの大切さが改めて問われ始めている。そうなのだ。ひとは森羅万象と繋がりがあって生きているし、生かされてもいるのである。しかし、6年間も続けているのはスタッフ間に温度差が出て来るのは

今月のまちの縁側GOGO!

音楽とスポーツ文化がいっぱい！
 縁あって沢山の楽しい取り組みがまちの縁側GOGO!では開かれていて笑いが絶えません。笑うのは健康にいいそうですね。目をみて、笑顔であいさつ、そんなつながりが広がるちよつとしたきっかけに、まちの縁側GOGO!がなれば・・・



写真6：右足が先生がつくったもの。簡単といいつつ、やっぱり違いますね!

“MOTTAI NA I” 大切にきていた服が布ぞうりに変身?

今回は毎月第二水曜に行われている布ぞうりづくりをご紹介します。500円で出来て覚えてしまったらお得。布ぞうりは素足で履いて気持ちがよく、歩くだけでぞうきんがけもできてしまうすぐれものです。着れなくなったTシャツで、みなさんで楽しみながらつくりましょう!

日時：毎月第二水曜10時～12時
 持ち物：布切り用ハサミ・30cmものさし・5本指ソックス・大人用Tシャツ(2枚で1足が目安)
 費用：500円
 講師：横井郁江先生

まちの縁側GOGO!はふらっと気軽に寄れる場所!
 開縁時間(10:00～16:00)中は、ご自由にお立ち寄りください。ご希望により音楽・映像を流す事ができます。時間外の利用にも対応しておりますので、お気軽にお問い合わせください!
 (永井)



写真2：昨年の拡大版ワールドカフェの光景

当然であるし、健康上の事情や、福祉を福祉分野の中に鎖さず、他分野の中に溶け込ませたいという私との考え方の違いから離れてゆくスタッフもいる。加えて自由に動きまわれない現状をどうにかしたいと思いつながら、現状を打破したいと思いつている試みではいるのだが、まだその実は結ばない。

6周年目を迎えるにあたって、毎年恒例になっていく拡大版の開催時期を、次年度から2月からほかの月に移そうと思う。福祉系の学生さんに関わってもらうためには、2月という時期は不適切だということが解ってきたのである。また、いろいろと考えていることもあるが、発表の段階ではない。もうしばらくお待ち下さい。今後ともジネンカフェ・プロジェクトにご支援をお願い致します。

尚、平成13年11月に行った「VOL.055」、ゲスト：藤原はづきさん(ナゴヤ駅西サンサロ・サロ代表)『狭小空間でシェアする社会の多様性』多目的スペース「ナゴヤ駅西サンサロ・サロン」が生み出すつながり。12月の「VOL.056」ゲスト：古谷萌子さん(長者町ア一

トアニユアル/長者蜂育くみ隊)『まちとアートの多様な出会い』のまとは、【ジネンカフェだより】<http://blog.goo.ne.jp/jinencafe/>で読むことが可能です。ご興味のある方はぜひお読みになって下さい。そして今年度最大のイベント、「VOL.058」は2月19日(日)の11:30～17:00まで名古屋柳城短期大学の体育館にて催します。詳細はまちの縁側育くみ隊のHPをご覧ください。担当の私、大久保 okubo@engawane.jp までお問い合わせ願います。よろしくお願致します。

(大久保)

まちの会 所 通 信

名古屋市中区錦二丁目の
まちづくり拠点

問い合わせ（担当：名畑）
TEL/FAX：052-201-9878

若い女性の時代!?

錦二丁目長者町地区にまちの会所を開設して4年が経つ。新年号を機会にふりかえってみると、地区まち育ての状況は激変した。たびたび本誌でも紹介しているまちを遊びのフィールドにする「長者町ゼミ」や、長者町でのアート活動をする「長者町発展計画」など、新しい協働の概念が生まれているのではないか。「まちの人」と言っても、その言葉が指す人があまりに多様になってきた担い手の面々をあらためて思い浮かべると、うれしくてたまらなくなる。



写真1：まちの長者を虜にする女性デザイナー・コーディネーターたち（左から原さん、川澄、岩井）

そして、様々な動きの中心に若手女性がいることも見逃せない。事実私も学生の時からNPOで活動をし、大学院延藤研を卒業してまちの会所運営に携っているし、このまちを研究のフィールドにしていた延藤研の学生で卒業した今も長者町での活動を続けているのは、私も含め4人もいる。問屋ビルのストック活用研究をしていた川澄は、設計事務所を構え、

をつくろうと研究実践を続けているし、古谷はまちづくりに熱心な長者町の若手経営者の会社に勤めながら、まちの人たちで企画する「アートアニュアル実行委員会」の企画運営の中心にいる。岩井は児童館に勤めながら、まちの広報発信・表現活動に携っている。他にも、あいちトリエンナーレの学芸員としてまちに関わるようになった女性や、長者町カルタなどデザインでまちを元気にしようという原さん、長者町発展計画の山田さん・・・このように企画ができ、実践ができる20・30代女性がたくさんいる。まったく頼もしい限り。長者町カルタの最後の札は、「わたしのまち」という札。まちを好きになると、そのまちを「わたしのまち」と呼ぶようになる。そんな人がもつと増えたらなー、との願いだが、「わたしのまち」の輪は、若い女性が誘発要因となっておつちゃんらも子どもにも、まだまだ広がっていくのでは！と感じている今日この頃です。（名畑）

編集後記

皆様こんにちは。今号は長者町特集！現在、長者町ではいくつもの活動が立ち上がり・進行しています。沢山の長者町を好きな人達が楽しく関わっている様子が伝わっていたら嬉しいです。そして、これら個々の活動がさらに新しい活動を生むという状況も生まれつつあります。これは、まるで延藤文庫の絵本「あおくときいろちゃん」のよう。色と色が混ざり合うことで新しく美しい色が生まれるレオ・レオーニの名作絵本のように、長者町に美しい物語がたくさん咲き誇るのが今からとても楽しみです。（川澄）

あおくときいろちゃん
作：レオ・レオーニ
翻訳：藤田圭雄
出版：至光社

川澄一代
まちの縁側育くみ隊会員。現在、地域との関係を大切に暮らしを実現する建築のあり方を模索中。
川澄一代設計事務所主宰。

ENGAWA NEWS 87号

発行日：2012年2月23日

編集・発行：NPO法人まちの縁側育くみ隊

〒460-0002

愛知県名古屋市中区丸の内2-18-13

丸の内ステーションビル 2F

TEL/FAX：052-201-9878